スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県尾花沢市

自 治 体 名 ： 尾花沢市
担 当 課 名 ： 教育委員会 こども教育課 教育指導室
電 話 番 号 ： 0237-23-3330

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	372.53㎢
人口	13,118人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	290人
部活動数 （運動部活動のみ）	12部活
地域クラブ活動数	2クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

【現状】

市の人口減少とともに中学校生徒数も減少傾向にあり、令和10年度279人、令和13年度には221人まで減少する見込みであり、令和8年度には2校の中学校が統合し1校となる予定である。

令和6年度から部活動の任意加入制度を導入し、生徒の活動の選択肢を広げ、やりたい活動への挑戦を支援するため「尾花沢市学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会」を設立し、休日活動の支援体制整備を図っている。

【課題】

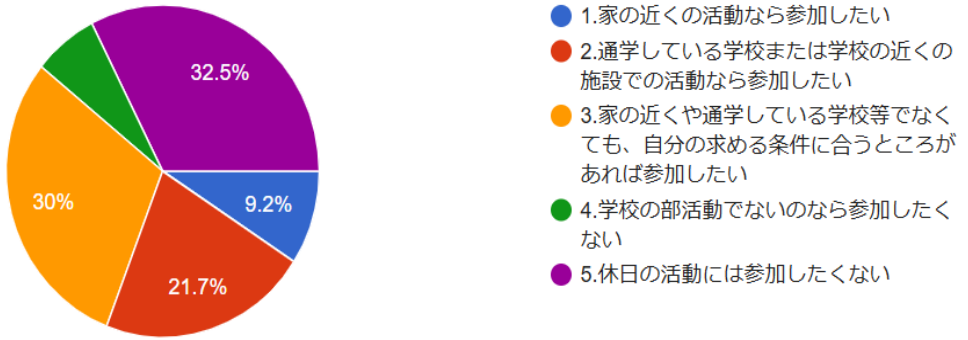
① 指導者謝金も含め、運営費など保護者負担の急増

② 活動の運営が学校から離れたことによる部活動の意義の喪失（勝利優先主義）

③ 生徒の交通支援

【小学校5・6年生アンケート】

休日の部活動が地域連携・地域移行しますが 、学校以外の地域で行われる休日のスポーツや文化活動に参加したいですか。

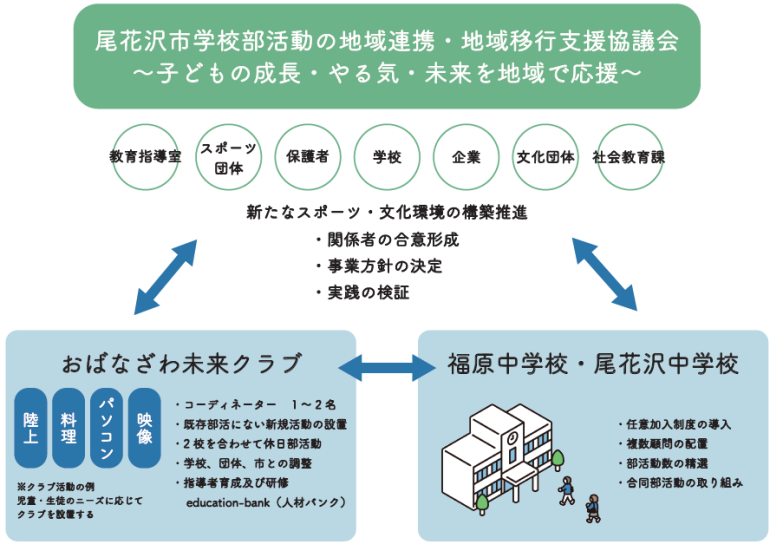


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（こども教育課　教育指導室）

・学校部活動の地域連携・地域支援協議会の運営及びコーディネーターの配置

・市内スポーツ団体及び市長部局との調整

◉市長部局（総合政策課）

・公共施設の調整及び児童生徒利用の一律減免などの支援

◉コーディネーター

・生徒及び保護者の相談　・学校との調整及び近隣市町との連携

・スポーツ団体の状況確認及びスポーツ教室、指導者研修会の開催

年間の事業スケジュール

4月～

① 休日活動受入れ組織「おばなざわ未来クラブ」
令和7年度基本方針策定及び周知広報及び募集活動

② おばなざわ未来クラブ活動開始

③ 指導者研修

④ 学校部活動及びスポーツ活動団体状況調査

⑤ スクールバス運行調整

⑥ 尾花沢市学校部活動の地域連携・地域支援協議会

⑦ 「陸上教室」開催

9月～

⑨ 「サッカー教室」開催

⑩ 部活動及び地域活動に関する児童生徒、保護者アンケート調査

⑪ 「ハンドボール教室」開催

⑫ 「バレーボール教室」開催

⑬ 尾花沢市学校部活動の地域連携・地域支援協議会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		13クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		11クラブ（10部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		2クラブ
全体の指導者数	44人	全体の運営スタッフ数	45人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日･休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
おばなざわ未来クラブ	教育委員会	･女子バレー、ハンドボール、野球、陸上	･休日 毎週1回	午前中	1年生20人 2年生17人 3年生19人	通年	15人	20人	5,000円/年額	中体連：部活動 その他：地域クラブ
①尾花沢剣道 ②OFC ③尾花沢クロカン ④尾花沢アルペン	スポーツ少年団	①剣道 ②サッカー ③スキー ④スキー	･平日 3回 ･休日 1回	平日：夜間 休日：午前中	1年生13人 2年生6人 3年生7人	通年	14人	20人	各団体で設定	中体連：部活動 その他：地域クラブ
①卓翔会 ②JSC ③栗原会	保護者運営団体	①卓球 ②卓球 ③柔道	･平日 3回 ･休日 1回	平日：夜間 休日：午前中	1年生9人 2年生7人 3年生15人	通年	10人	15人	各団体で設定	中体連：部活動 その他：地域クラブ
①ホワイトフォックス ②尾花沢男子バレー	クラブチーム	①バスケットボール ②バレーボール	･平日 3回 ･休日 1回	平日：夜間 休日：午前中	1年生11人 2年生8人 3年生8人	通年	5人	10人	各団体で設定	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

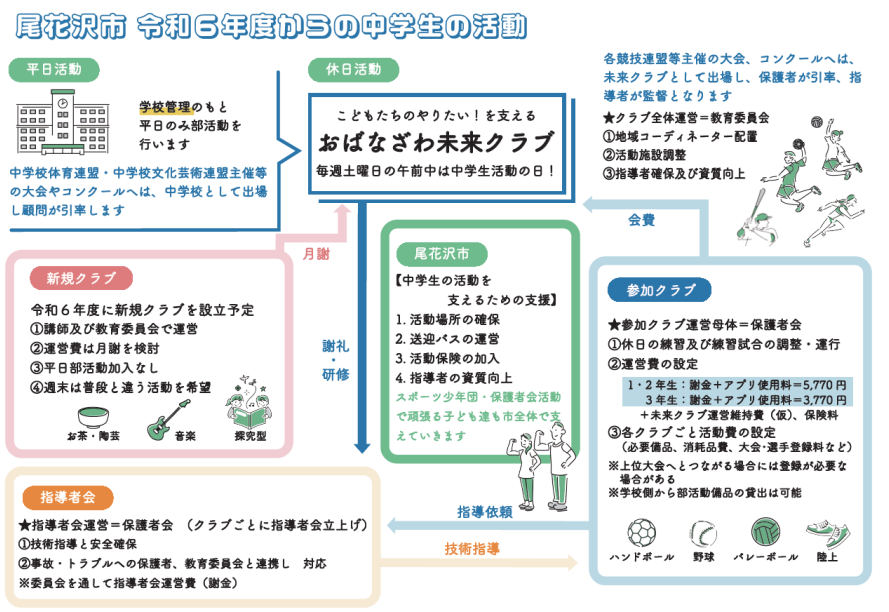
スポーツ庁

主な取組例

●おばなざわ未来クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	①女子バレーボール ②ハンドボール ③野球 ④陸上
運営団体名	尾花沢市教育委員会
期間と日数	各種目ともに通年 月4回程度
指導者の主な属性	地域人材
活動場所	市公共施設、学校
主な移動手段	スクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	各種目ともに 1･2年生　5,000円 3年生　　3,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●教育委員会

役割：おばなざわ未来クラブ運営を行い、部活動地域移行コーディネーターの配置

●各種目団体運営責任者

役割：種目ごとの運営を行う

●指導者　15名

役割：技術指導とともに心身の健康、ハラスメントやいじめ防止に努める

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

【地域移行コーディネーター1名の配置】

① 尾花沢市学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会の開催
② おばなざわ未来クラブの運営
③ 休日活動の受け入れ団体の立ち上げと調整
④ 指導者研修会の開催
⑤ 生徒、保護者の相談対応
⑥ 他市町村との情報共有
⑦ 上記事業における企画及び資料作成

取組の成果

- 協議会の中で「受益者負担と行政支援について」検討がなされた。
- 少子化が進み団体競技も立ち行かなくなる中で、経済的にも子供の活動環境を支援する必要があり、行政負担は必要との意見が多く出された。
- 指導者運営経費として、各団体へ支援金を支出した。
- 学校から活動が離れはじめたことによる「勝利優先」、生徒及び保護者間のトラブルが多く発生した。そのため指導者研修もかねて、プロの選手からの指導を受けるスポーツ教室を開催し、生徒と指導者の意識改革を行った。

今後の取組における課題

- 地域団体の持続可能な団体運営について

① 地域移行による保護者負担の急増
② 勝利優先による過度な活動の抑制
③ 地域団体へ部活動の意義の継承

課題への対応方針

①受益者負担と行政支援について、スポーツ庁・文化庁の実行会議最終とりまとめにおける費用負担の在り方等に関する記載を参考としながら、本市の実情に合わせた在り方を今後も検討していく。

②③技術だけでなく、中学生の心身の健全育成としての活動を指導者や保護者に理解してもらうためのスポーツ教室を定期的に開催していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

① 学校部活動の地域支援・地域移行支援協議会の開催
② 学校部活動、地域団体活動状況把握
③ 指導者講習会の開催
④ スポーツ教室の開催
- 陸上教室（現役大学生5名を講師に中学生へ技術と進路講話）
- サッカー教室（モンテディオ山形から講師を招き技術指導と生き方講演）
- ハンドボール教室（本市出身のプロ2名が技術指導と人間形成講話）

⑤ 相談業務（個別相談7件）

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

保護者運営団体への運営状況の聞き取りを実施
運営会費や執行状況を確認

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

地域クラブ活動の指導者や参加者との連絡・調整のためコミュニケーションアプリ等の活用（公式LINEを運用し、情報発信や参加取りまとめを行っている）

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

① ①活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応を含め管理責任の主体については、運営主体となるスポーツ少年団、保護者団体となる
② 事故等が発生した場合
- スポーツ少年団⇒スポーツ少年団本部
- 保護者運営団体⇒教育委員会との適切な連絡調整

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

① おばなざわ未来クラブ所属指導者会の情報交換会の実施
② 中学生活動団体を対象とした指導者研修会の実施
③ 各団体への指導者状況の確認

今後の取組における課題

① 指導者謝金が遠征等の自費より低額であるため、経済的負担が多い。
② 競技ごとの研修会を実施し、プロの選手からの指導による技術と心身のメンタル研修が有効であり、講師選定が難しい。

取組の成果

① おばなざわ未来クラブ所属指導者会の情報交換会

■ 野球、バレーボール、陸上、ハンドボールの指導者7名が参加

- 練習試合などの指導や県外遠征など自費負担が多い。
- 団体競技では、他市町での地域移行の現状に違いがあるなどの課題把握ができた。

② 消防本部で安全講習会を実施し、指導者だけでなく保護者や中学生の参加が見られた。昨年実施の研修会では参加率が芳しくなかったことから、競技ごとの研修会を実施すると指導者だけでなく生徒も参加し、非常に有意義であった。

課題への対応方針

① 受益者負担と行政支援の在り方検討で、指導者への活動費、謝金についても本市の指針を策定し、指導者が協力しやすい環境を作っていく。
② 本市単独だけでなく、近隣市町村と協力し、実施していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

本市出身の選手や所属チームと組織的な連携

① 現役大学生で全国で活躍する選手を毎年招き、中学生だけでなく一般の市民と研修会を実施しながら関わりをつくっていく。

② 本市出身のプロリーグで活躍する選手の「応援する会」を令和8年度に発足し、所属チームからの講師派遣で協力を締結予定。

指導者研修の内容

研修名	サッカー教室
講師	モンテディオ山形クラブコミュニケーター
研修内容	■ 指導者及び小中学生、保護者35名 ① 体幹トレーニング、基礎練習の仕方 ② トラップ、シュートなどの技術指導 ③ ミニゲームを通しての動き指導 ④ 指導者と保護者が気を付けること ■ 講演「生き方は選べる　諦めず挑戦し続ける」質問コーナー

指導者研修受講者の声

指導者から

自分も尊敬し、応援していた岡崎選手に指導していただいて、改めてサッカーを通して子供達を心身ともに育成していくことの大切さを実感しました。

指導の難しさはありますが、保護者の皆さんと協力して子供達が楽しい！と感じる環境をつくっていきたいと思います。

●参加者の声

・参加保護者

サッカーの指導者は、先生お一人なので保護者みんなで協力しながら活動しています。先生から「サッカーを通して学べることもたくさんあるが、それだけでない。いろんなことに挑戦し、ワクワクして生きてほしい」という言葉に感想しました。

・参加生徒

ちょっとしたことでボールの蹴りが全然違うことに驚いた。すごく楽しい練習で、またサッカーが好きになった。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

① クラブチーム立ち上げ支援
② スポーツ少年団への協力依頼
③ 保護者主催団体への運営確認と安全管理の徹底

今後の取組における課題

① 所属生徒が少ないため、クラブチームの運営費など経営面で課題がある。
② 今後、様々な選択により活動が維持できない団体競技の増加。
③ 保護者運営団体の中には勝利優先により過度な活動をしている団体が見られる。

取組の成果

① おばなざわ未来クラブ所属のハンドボールクラブでは、半数以上クラブチームへ移籍した。移籍の理由の主なものが部活での活動時間では満足できず、本格的に平日、休日ともに活動をしたいことによるものであった。ハンドボールクラブでは、体制の立て直しを図り、生徒支援にハンドボール一般団体のほか、プロ選手も関わっていただいたことで、クラブチームの立ち上げに向け取り組んでいる。
② ハンドボールスポ少の指導者も中学生活動の支援、ハンドボール教室の実施の際に協力があった。
③ 保護者主催団体には、コーディネーターが聞き取りを行い、各団体の課題把握と相談業務を実施した。

課題への対応方針

① スポーツ少年団との連携、合併や民間からの寄付なども視野に入れ、活動方針と運営費を検討していく。
② 市内外の活動団体と連携し、市内での活動が困難となった場合は広域に範囲を広げていく。
③ 尾花沢市部活動等のガイドラインの周知と遵守を呼びかけながら、活動用消耗品購入支援をガイドライン遵守を要件とする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

① アンケートの実施
② 集約
③ 実施可能な種目から協力企業や個人を募集
④ トライアルを実施
⑤ 継続可能か検討

今後の取組における課題

アンケート実施の結果、部活動以外での活動については、居住地近くまたは学校近くでの活動を希望する児童生徒、保護者が多いが、中学生は部活の延長の活動を希望し、小学生は文化的活動の需要が多い現状であった。

スポーツをやりたい、市内でやりたい、と希望する生徒が多く、また、もっと活動時間が欲しいと望む生徒も多数見られることから、平日の活動も含めて体制整備が必要となる。

取組の成果

アンケートの結果、「休日にスポーツ文化活動をやってみたいですか」の問に対し、小学校6年生60.9%、中学校1・2年生49%で、小中学生ともに休日活動について前向きな姿勢がうかがえる。内容としては、部活動の延長としての活動を希望する生徒が多く、多様な活動としてキャンプを選択した児童生徒は2名であったため、トライアル事業は見送りとなった。

その他、新たなスポーツ活動希望がほとんどなく、取組事項は実施できなかった。

課題への対応方針

平日も含めた中学生の活動の受け入れ団体の掘り起こしをしていく。

毎年、中学生に意向調査を行い、新たな活動と協力団体を発掘していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

① 他市町村での状況の情報収集
② 受益者負担と行政支援について「学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会」で検討する
③ 交通支援（スクールバスの運行）

取組の成果

① 部活動地域移行コーディネーターが他市町の状況について聞き取りを行ったが、なかなか他市町においても地域移行が進んでいない状況が多かった。近隣においても過渡期であり、課題が山積している。
② 協議会では、山間部である本市では交通支援が絶対的に必要であり、地域移行に伴う保護者負担が非常に大きいことから、都市部と同様の扱いとせず、しっかりとした行政支援をしていくべきとの意見が出された。
③ スクールバスを土曜に限定し運行した。

今後の取組における課題

① 各市町によって取り組み状況も違うため、お互い参考にならない部分もあった。保護者の中には、部活を継続している市町があるにもかかわらず地域移行を推進されたことで不利益を被ったと苦情もあった。
② 協議会で出された地域移行への行政支援について、支援対象や時限的なものか、また不公平感のないものか、検討すべき課題が多い。
③ 本市は、人口に対しての面積が広く、スクールバスの運行範囲も非常に広い。乗車時間を1時間以内にするため少人数の乗車であっても台数を動かす必要があり、費用対効果の面で課題となる。

課題への対応方針

① 近隣市町で取り組みや受益者負担の違いは、生徒や保護者にとって不満や不安となるため、連携し大きな違いのないよう取り組む必要があり、コーディネーターや担当で情報共有しながら取り組んでいく。
② 国で示された実行会議最終とりまとめを参考にしながら、近隣市町と連携し広域で取り組んでいく。
③ スクールバス運行の効率化と運行規定の見直しを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

① 児童生徒の公共施設の優先的使用と減免
② 統合後の小中学校の活用について庁内の関係機関と協議

今後の取組における課題

① なし
② なし

取組の成果

① 毎週土曜日の午前中を中学生活動日と位置づけ優先的に貸し出しを実施し、所管課において全額減免措置を実施。
② 統合後の小中学校利活用については、老朽化に伴う改築費、維持費などから利活用を実施しない方向で検討。

課題への対応方針

① なし
② なし

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

キーボックス等による鍵の受け渡しを実施

用具使用・管理等における取組

① 学校体育施設等の夜間照明の整備・活用

② 用具等の保管スペースの確保

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度に立ち上げた休日活動の受け入れ組織「おばなざわ未来クラブ」の円滑な運営を重点目標に本実証を実施した。また、業務改善のためコミュニケーションツール、スクールバス運行のための連絡ツールを導入した。

「おばなざわ未来クラブ」2年目の運営では、各種目クラブの中心となる生徒、保護者も代わるため、コーディネーターが団体と連携を密にし取り組んでいる。

現在の休日活動の形態は、4つに分かれており①教育委員会「おばなざわ未来クラブ」②スポーツ少年団③保護者運営団体④クラブチームとなっている。①～③の団体については、平日に学校で部活動を実施し、学校として中体連主催の大会に出場している。④については、部活動の地域移行を機にクラブチームを立ち上げ、中体連主催の大会へクラブチームとして出場している。

実証事業を実施する中で、地域移行による保護者負担の増加が大きな課題となっている。地域移行の受け入れ団体の持続可能な運営について、主体者、保護者、行政とともに検討する必要がある。また、部活動の意義を損なうことなく活動できるよう、指導者と質の確保についても継続して研修を実施することも必要となる。

●成果の評価

① コミュニケーションツールを導入し、様々な形態で活動する団体へ対し行政からの情報提供等が可能となった。特に活動場所や活動時間帯などが把握可能となり、状況がわかりやすくなったが、同意の得られない団体もあり、課題が残った

② 交通支援として、スクールバスの運行を行ったが活動の中止や変更の連絡が徹底されなかったり、バス運行管理の業務煩雑であったことから、連絡ツールを導入した。学校や行政など様々なアプリを導入し、非常に分かりにくいなどの意見もあったことから、全体の見直しが必要である

③ 5月に消防本部で、生徒の活動中の安全確保について指導者研修を行った。指導者のほか保護者、生徒も参加したが、指導者の参加率が芳しくなかったことから、競技ごとのスポーツ教室を開催し、専門的技術指導について、またメンタルについてもプロに学ぶ機会を設けた。非常に効果的な取り組みであり、今後も継続したい。

●今後に向けて

① 中学生の活動については、尾花沢市部活動等に関する基本方針を策定しており、本方針の周知を図り理解を求めていく。中学生の活動について、団体間、行政と共有を図り、お互いに活動内容を確認していくよう取り組んでいく

② ギガタブレット更新し活用の幅が広がるため、アプリ等の活用状況を確認し整理していく

③ 陸上教室・・・・世界、国内で活躍する本市出身大学生による陸上教室
サッカー教室・・プロサッカーチームからの派遣指導
ハンドボール教室・・本市出身プロリーグ選手のハンドボール教室
女子アスリート教室・・元全日本選手の心からだ×スポーツ講演と実技安全研修とともに
今後も継続していく

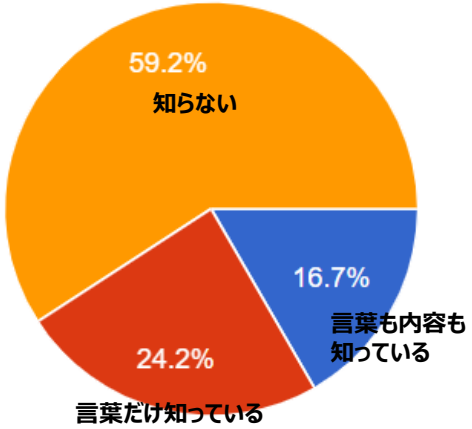
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

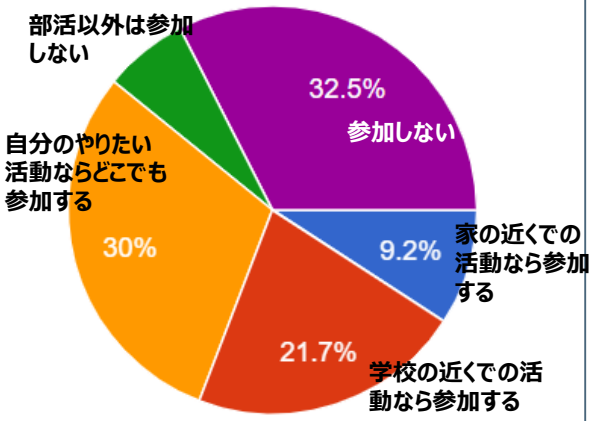
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

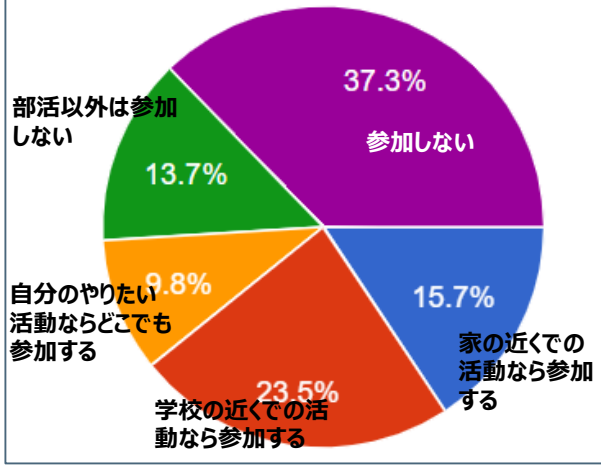
Q.あなたは部活動の地域移行をしっていますか？（小学校5・6年生）



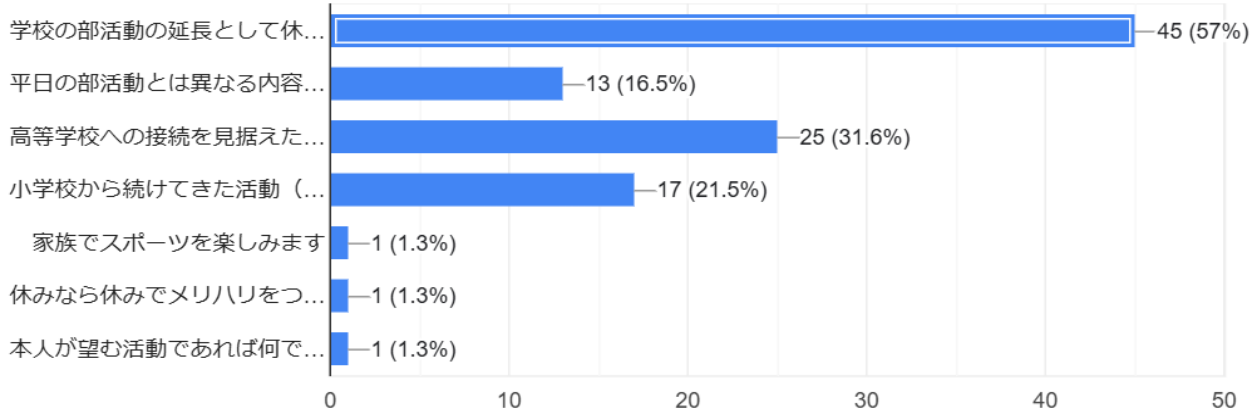
Q.学校以外の休日活動に参加したいですか？（小学校5・6年生）



Q.学校以外の休日活動に参加したいですか？（中学校1・2年生）



Q.休日のスポーツ文化活動に参加させるとしたらどのような活動を考えますか？（保護者）



●スポーツ教室　講師の声

こども達が、スポーツを通して勝つことだけでなく人間として成長できるよう協力していきたいです。子ども達がスポーツを楽しめる環境を作っていくことが、私達、大人の役目だと思っています。（ハンドボール教室）

なかなか思うような成績を残せず苦しいときに思うことは、自分を支えてくれ励ましてくれた人のこと。走ることで恩返しがしたいと思っているので、ふるさとの子ども達にできることを協力していきたいです。（陸上教室）

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料

部活動改革通信

教育委員会発行の各スポーツ教室開催の様子

2026.03

今年度３つのスポーツ教室を開催しました。
その中では、尾花沢出身で全国・世界で活躍する先輩達が尾花沢の子供達に協力したいと講師を引き受けてくれました。

OBANAZAWA MIRAI CLUB
News Letter
vol.2

お知らせ

令和８年３月22日(日)元全日本代表パワフル加奈・大山加奈さんが、女性アスリートの健康問題とスポーツの両立について、講演会を開催します(実技指導あり)

発行元：おばなざわ未来クラブ事務局　担当：倉林・伊藤コーディネーター
（尾花沢市教育委員会 教育指導室内） tel：0237-23-3330



1 FOOTBALL

サッカー教室

株式会社モンティディオ山形の岡崎建哉さんを講師に、サッカー教室を開催しました。OFC は、選手の少なさもあって、練習相手は保護者の皆さん。今回の教室にも保護者も参加し、スパイクを履いて 4 周ジョグから一緒にスタート。パスやシュートの専門的な技術を指導していただきました。

2023 シーズンで引退した岡崎さんは、実は学生時代に何度も「君はプロにはなれない」と言われたそうです。しかし「絶対プロになる」と強い思いを持ち、苦しい時も逃げずに立ち向かい、這い上がるために挑戦し続けたことが今に繋がっていると教えてくれました。 その自身の経験から**『『生き方は選べる』もので、どうせ無理と諦めず、自分がどんな人間になりたいかを探り、迷わず進んで欲しい、人生をワクワクして生きて欲しい』**とメッセージをもらいました。







2 HANDBALL

ハンドボール教室

豊田合成ブルーファルコン名古屋所属の藤勢流選手（尾中出身）、元アースフレンズBM 所属の矢作元さん（福原中出身）を講師に、技術指導と講演をいただきました。

『一流選手ほど、人として挨拶や礼儀を重んじ、常に謙虚。自分もそうでありたいと思う。"監督には当たり前" の水準を高めることを言われている。食事、睡眠、日常の水準をいかに高め、維持するかを心掛けている』と話す藤選手。

また矢作さんからは**『目標を持ち、その目標に対し常に自分の到達点を確認するとともに、アプローチを間違っていないか確認することを大切にしてほしい』**とアドバイスを頂きました。

山形県出身者でプロの道に進めたのは３人。尾花沢出身の２人からの**『自分たちに続く選手を待っているよ』**という嬉しい言葉で教室を終えました。







3 TRACK AND FIELD

陸上教室

尾花沢中学校グラウンドに大学生５人が種目に分かれて後輩達と一緒に練習しました。その後の交流会では、参加者の「大会で結果が出なかった時、苦しかった時どうしていますか？」という質問に、高橋亜珠選手（2024年関東インカレ２冠 100mH・200m＆MVP2025 年日本インカレ200m 優勝）は**『仲間の存在はとても大きいです。本番は1人だけど練習は仲間と励まし競い合いながら、時にケガで満足な練習ができない中でも仲間の支えで頑張れた。普段からコミュニケーションをとる事を心掛けています。』**

同じ質問に対して武田莉奈選手(女子200m 障害で日本高校女子新記録を出し優勝)は**『自分が走り、結果を出すことが皆さんの気持ちへの恩返しだと思っているので、これまで自分を支えてくれた人や応援してくれた人への感謝の気持ちを大事にしています。』**と答えてくれました。

さて、小中高校生の皆さん、あなたは何を思い浮かべますか？





2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年		令和6年		令和7年	令和8年
学校部活動の地域連携・地域移行協議会設置	部活ごとの保護者説明会、役員説明会・学校、顧問聞き取り	おばなざわ未来クラブ設立 地域人材、事業所交渉	活動場所の調整 スクールバス運行 保険加入補助	中学校現状調査（保護者・学校聞き取り）、アンケート結果を踏まえて新規活動検討	平日活動の移行も視野に入れながら、クラブチーム設立、移籍等も検討

●経過

①顧問から現状と地域移行する際の問題の聞き取りを行う。

②部活動保護者会長会を対象に部活動改革について説明会を実施。

③教職員向けに部活動改革について説明会を学校ごとに2回開催。

④部活動ごとに保護者説明会を実施。

⑤地域移行を実現するための意見交換会を保護者対象に実施。

実施にあたって生じた課題

①生徒、保護者、顧問ともに非常に不安を感じており、「できない」という気持ちが強い。

②団体競技における休日活動。

●実施内容、工夫した点 等

①説明会は、それぞれの立場で地域移行を検討してもらうために保護者と教員向けに別々に実施し、教育委員会主導で実施。

●経過

令和6年4月　任意加入制度の導入
休日活動の地域移行試行
（学校・顧問による伴走支援）
おばなざわ未来クラブ設立

11月　休日活動の地域移行完全実施

●実施にあたって生じた課題

持続可能なクラブ運営のための費用負担と行政支援の在り方。

●実施内容、工夫した点 等

①部活動の地域移行コーディネーターによる地域人材の確保。

②全庁で部活動地域移行の取組みの情報共有を行い、支援について取り組んだ。

③連絡アプリを導入。

●経過

令和7年4月　おばなざわ未来クラブ周知及び募集開始
部活動改革についてPTA総会保護者説明
活動場所の調整会議の実施
コミュニケーションツールの変更導入
スクールバス連絡ツール導入
新規会員受付開始

●実施にあたって生じた課題

①地域移行により保護者負担増への対策。

②団体競技の中でクラブチーム移籍者が出たことにより、活動体制の要見直し。

③休日活動で部活動意義が損なわれている。

●実施内容、工夫した点 等

①各種目クラブと協議しコミュニケーションツールを変更。

②スクールバスの運行連絡アプリを導入し検証。

③中学校体育館使用については、キーボックスを設置。

④プロ選手等を講師にスポーツ教室を実施し、競技力だけでなく人間力の育成についても指導。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

中学校休日活動の地域移行の実施 → 実施状況の検証と将来展望 → 平日活動の地域移行の実証

~令和６年
Step 01
休日活動の地域移行実施
- 部活動の地域連携・地域移行支援協議会の設立
- おばなざわ未来クラブの立ち上げ
- 任意韓愈聖堂の導入
- 中学生活動場所の確保、減免に係る庁内調整
- アプリ等の導入

令和７年度
Step 02
中学校活動の現状調査と地域クラブ活動拡大
- おばなざわ未来クラブの円滑運営
- 生徒、教員、保護者への実態調査
- 受益者負担と行政支援の在り方検討
- 地域支援体制のための地域人材、事業所との連携強化
- 部活動意義の継承のための研修会の実施

令和８年度以降
Step 03
平日活動の充実に向けた地域移行の検討
- 持続可能な運営体制への支援
  （クラブチーム運営について研修）
- 広域取組への検証
- 部活動意義の継承のための研修会実施

長期ビジョン
１０年度の生徒数減少に向けての対策
- 広域活動のための市町村連携
- ビジネス事業の活用　など